

月刊

ENG O

2月号

2012年2月1日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦

連絡先：TEL：090-5258-5704

(平日 18時～21時)

FAX：06-7494-9845

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

地ノ森いこいの家OPEN!

今号は1月14日に行われた「地ノ森いこいの家」開所式の様子をお伝えします。

午前11時大船渡教会での「カリタスジャパン大船渡ベース」開所ミサが行われました。大塚司教様が主司式、平賀司教様、菊池司教様そして16人の司祭方。多くの人が来られるようにと拡張したばかりの聖堂も、この開所ミサには予想をはるかに超え、多くの信徒やスタッフで教会は溢れるほどになりました。

午後2時からはいよいよ「いこいの家」の開所式です。ベースのスタッフは土地の風習、方法も分らず、信徒の皆さんにずいぶんとおんぶにだっこのような形で助けられ、同時に、たくさんの方の事を学びながら式典の準備をしてまいりました。式に先立って岩手県よりカリタスジャパンに震災後の絶大な支援に対しての感謝状が贈呈されました。開所式は開会の辞に始まり、主催挨拶、県知事からの祝辞代読に続き、建築に携わった方がたに感謝状が渡されました。感謝状の筒を子どもたちが緊張して席までお持ちした様子を見て参加者は微笑み、緊張が一瞬にしてほぐれました。このように子どもたちも一緒に参加出来た開所式は素敵なものとなりました。

来賓紹介に続いてテープカット。テープを張り始めると一斉にカメラが構えられ、会場は緊張した空気で埋め尽くされました。「どうぞ」の合図とともにテープにはさみが入り、テープが切られると参加者の顔はほっとした表情に変わり、会場内に喜びの拍手があがりました。



和やかな写真撮影、そして、パーティー。このパーティーでは15歳で日本舞踊の名取りをとっている男子中学生（自身も被災してすべてを失った）がお向かいの美容院のおばさんの着物を着付けしてもらい『女形』の舞を披露してくれました。

この開所式には、仮設に入っている住民、「地の森八軒街」の仮設店舗の人びと、お隣さん、地元の社会福祉協議会、今まで一緒に活動してきたNPO、NGOなど、教会関係の人びとの合わせて150人ほどが参加してくださり、とてもうれしい開所式となりました。

10月から今までに築いてきた地域や行政、他のボランティア団体の人びととの関わりを大切に学んできました。津波の被害を大きくしたのは単に自然の現象だけではなく、地理的特性によるものも多く、いま日本の教会が一丸となって東北に繋がろう、繋がらせてもらおうとしていることの中に希望を見つけました。

(レポート協力：ベーススタッフ Sr.野上)

《お知らせ》

◆大船渡ベースのブログ<<http://ameblo.jp/ofunatobase/>>ができました。活動の様子をぜひご覧ください。

◆長期・短期ボランティア大募集中。

募集の詳細はENGOのホームページ<<http://www.osaka.catholic.jp/engo.html/>>をご覧ください。

◆お問い合わせは上記連絡先でも承っております。